

18/11/2 第 29 回特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議石垣部会
名古屋市民オンブズマン作成メモ

13:00

蜂谷主幹：始める

西野所長：出席ありがとう

天守台石垣保存、搦め手馬出指導ありがとう

蜂谷主幹：出席者紹介

赤羽、西田、文化庁、高田は欠席

事務局紹介

報道はこれ限り

会議次第、出席者名簿、資料

村木：報告 進捗状況 資料 1

天守閣部会と同じ説明

蜂谷主幹：なにか

宮武：転換経過報告

曖昧なところは禍根を残しかねない

7月20日 地元有識者とは誰か？

名古屋在住の人はいない

村木：名古屋城に関与している有識者

在名古屋ではない

宮武：誤解がない形で客観的に

部会を含めて

「認識の一致」

認識の相違から来ていることか

部会の認識が足りない？

地元有識者 意見がいまだ反映されていない と読んでよいか

西野所長：文化庁が言われた言葉

内容の解釈 文化庁の説明 調査、石垣保存方針が、
先生方から十分なものではないと評価頂いた 問題があるという趣旨

宮武：そうであれば「」で書いて

主語が、転用ではなく

通常では誤解を招く

申し述べておきたい今後の進め方

再三再四 本丸だけでなく、全体の石垣＋遺構の保全

天守台石垣 旧態の復元

2点は譲れない

- ・石垣保全方針

- ・保全

天守閣をとく、とかない、木造建てる建てないとは別

いかに保全するか

旧状復元

この部会 損なわれた穴蔵の復元

それを損なう基礎構造なのかどうか

蜂谷主幹：その他

千田：3 最後

基礎構造の検討

全体 進捗状況の報告

主語を欠いている

天守の基礎構造が

考え方が根本的に間違っている

文化庁も何回も言っている 根本的にできない

名古屋市でとりまとめたと言っている どういう天守閣復元案かわからないが、

少なくとも基礎構造 「江戸時代の石垣を壊して木造を建てる」成り立っていない

「必要に応じて見直しを行う」現実離れ 見直すしかない

再三部会・ワーキングでも指摘し、文化庁でも指摘されている

まだなぜ残っているのか

本当は建てるつもりはないのか？

認識をあらたにしないといくら会議をしても進まない

全体整備検討会議、天守閣部会 関連報告を求める

西野所長：天守閣部会 7月19日開いた

本日午前中に開いた 動きとして今日この時点は追加

7/13からの資料は示した 説明した

今日天守閣部会では基礎構造とは関わらない意匠的なこと

検討をして頂いた

蜂谷主幹：そのほか

北垣座長：資料1 経緯 構成員の方からちょっと理解できない表現だ

私もそう思っている

2-3 今後の進め方 ご意見が出ている

これが、実は今まで検討してきた その中でも申しているが、

石垣部会としてずっと言っていること あらためて踏まえて

こういうことを言っている

特別史跡 名古屋城跡「本質的価値」

全国にある史跡の中でもトップ 特別の価値の遺跡

「本質的価値」縄張り、特に石垣、堀

縄張りの中には地下に埋蔵されている遺物、遺構も当然含まれる

石垣の確実な現状の保存、現遺構の価値の一切を傷つけることなく

次世代に継承する 厳しい条件が名古屋城には付加されている

「真正性の確保」我々は認識している

当初から言い続けている 今日まで 申し添えたい

13:26

蜂谷主幹：ありがとう

議題は4つ

北垣：資料について事務局説明を

千田：座長が極めて重要なことを話された

事務局は流した

本質的はなんなのか 石垣部会、総合事務所も理解した上で、

共有しないと

天守閣部会も そこができていないか

全く流されてしまったのが

議事の進行を遮った

「必要に応じて」当たり前
担保するために史跡整備では求められている
部会、総合事務所、竹中工務店 十分理解できていないのではないか
なかなか会議をやっても「認識の一致をみていない」核心の部分
理解した上で名古屋市側として表明
千田からの表明もなにも回答がない
こんなことを書いている時点で名古屋市が理解していないことがあきらか
総合事務所長から発言を

宮武：流そうかと思った
送られてきた資料を見て失望した
総合計画の見直しがないと
バイブル自体が3月段階 地べたが付け焼き刃的
ワーキングでも「こんなマニュアルではだめ」
次の年に見直しは無理でも、細則は書ける 認識の一致を見た
→今回全く書いていない

西野所長：本質的価値を傷つけずに次世代に継承する
重要なテーマ
そのためにも保全、旧態の復元をしっかりとやっていく
木造復元とは関係なく
天守台石垣の状況からして当然すると受け止める
今後の進め方として、3番目 保存処置を優先して行う
文石協と相談してやる
前提としてやる
保存活用計画の見直し 石垣の保全計画をしっかりと作って
記述を不十分で大変申し訳ない
踏まえて対応したい
千田先生基礎構造 考え方がご指摘のとおり「はねだし架構」
先生方から問題があると指摘があるのは重々承知している
具体的な保存の計画を立てる 踏まえながら考えている

13 : 35

北垣：いろいろ議論がある
時間的に3時
現場検証をやらないと行けない

全体結構なボリューム どこまでできるのか
搦め手馬出し整備

名古屋城：搦め手馬出し

北垣：ワーキングでやったことは流して

名古屋城：勾配の検討

P 10

宮武：ワーキングでやったことを繰り返さないで

どこがどう変わったのか

その結果変わりました 指摘

さっぱりわからない

勾配について 東側 1 断面

横断図 全体的に示した

北垣：聞いている人、全くわからない

石垣 どのように成り立つのか

矩勾配 宝暦の中の資料 4 枚の絵図しかない

勾配と比較 ここまではびったり

基本的な材料 提示しないとわからない

ウソを言っているとは思っていないが、人に話すときはわかりやすく話さないと

勾配が重要

本丸搦め手 天守台も影響がある

やさしい絵を入れて どのような部分が変わったか

宮武：やり方を誤解している

記者 後日説明した 専門家

作業内容は

途中経過を部会の真ん中で途中でやっていくのか

どこが変わってどこが新しいのか

どうして出てこないのか

部会でやるべきことと、ワーキンググループでやること

部会でやる前に確認すること

資料送られたのは 2 日前 昨日差し替え 読めるわけがない

よりどころ 資料残っている、現物が宝暦
宝暦に合わせろ、ということではない
データが宝暦の改修
修理 天和の石垣
相互合わせてみた結果、具合が悪いのか、できるのか
無理に宝暦に合わせる必要がない
現状に合わせた方がよい、と結論が出たのか
残りの解体をする前に、参考物がなくなる前に
「何か問題はありませんか？」
この場で諮らないと行けない部分
切り替えて頂きたい

名古屋城：大変失礼いたしました。

勾配の検討 宝暦のものでやっていくことと考えている
隅門石、 数カ所堀門石 本園土
来年度 てんまだか ちょうはりを考えている

宮武：整理できていないようなので、質問して回答してもらいたい
おおいしがきやりかた
今残っている現物と全然違う
実は全く違う いかなることか
今回現物と違う図を根拠として持ってきた経緯は？

名古屋城：ちょっとまだ検討していない

宮武：では出しちゃダメ

宝暦の段階 天守台の基礎の設計図が残っている
天守台と設計図が全然違っている
なぜ残っているものと違うのか
どっちかが間違っているか 使えないか
10 ページ やりかたずを根拠にはまだできない
宝暦の図が天和に使うのは難しいと思っているのか

名古屋城：そこまでは考えていなかった
認識不足

宮武：ご自身でわからない部分
次に止まっている部分は何か

名古屋城：天守台石垣勾配を検討

名古屋城：勾配 やりかた図 慶長期の石垣を写し取ったもの
宝暦に勾配を変更したようだ
搦め手馬出 やりかたずを参考

宮武：結果一致しないでしょ

名古屋城：一致することとしないところがある

宮武：ワーキンググループでフットワーク軽く細かくやっている
部会ではこれ以上やらない方がよいのでは

千田：今回外すところ 前方に石が出ている
外したらわかるんじゃないか 外してもわからないと思う
どういう勾配の石垣か、どういう修理歴があるか
やはり押さえておかないと
図面上には残っているとは言え、始まらなくなっている
ワーキングで検討を踏まえて
解体に当たって資料に当たっていただかないと、外すのは重い行為

北垣：一応勾配の問題は保留して、さらにいっそう使わないと行けない
どういう使い方をすれば本丸の方にふさわしいのか
解体に際し、基本的な方向性を出して頂く
7 ページ 石材の検討 石垣背面構造の検討
地盤工学の先生に入ってもらって、水堀 経験したことがない調査
背面の土の問題
石垣の解体を進めてきた 10年以上かかっているおこの状態
体制を整えないと、天守台の問題も出てくる
まだあるのではないか
研究センター 言葉は出てくるが、西形先生の方
新たな問題

宮武：限られた時間

ワーキンググループ 新しく出されたもの 13 ページ

地盤構造 西形先生から出てきたもの

名古屋城 13 ページ

石垣背面検討 円弧すべり解析

栗石の幅

北垣：西方先生提案は大変重要

地盤の安定性

宮武：ここではじめて文化財担当と議論

熊本震災、東日本 異常流体

栗幅はいくつか

名古屋城：広かったり

宮武：具体的には

名古屋城：5 メートル

宮武：広かったり狭かったり どうすればよいか

名古屋城：本来の形に戻したい

その際、安全性を担保されているか

宮武：そこまで意見は求めているか

西方先生はなんと知っているか？

名古屋城：ばらばら

下 4 メートル、上 2 メートル

宮武：どうするかが問題

ここを処理しないと、背面土に石灰を入れないと

大量に切土がでる

掘削範囲が膨大になる

記録保存の仕事が出る
結論が出ていない

名古屋城：これ以上掘削することは考えていなかった
その範囲でやろう

宮武：それでできるのか

名古屋城：円弧すべり解析をまず

宮武：天和と慶長で栗石が異なる可能性
確実に違うのか？

名古屋城：平成調査
慶長期 砂岩が主体
天和期 庄内川河川礫を用いよう
違いがあるだろう

宮武：まるいもの、角があるものの違い？

名古屋城：石質のちがい

宮武：どういう風に接点するか
岩質の話も重要だが、形状、
接触面をどうするか
慶長の盛り土 接触が劣化 極めて重要
土層 レベル9メートル わかれている
西垣先生とはどうからむか
文化財と工学 関係があるのかなのか

名古屋城：背面 土が劣化している
水がたまっている 鉄分が沈着した
改良しようとする と地形を壊す
排水層を作る

宮武：発掘データとワーキング、

地盤工学とはキャッチボールして

解決したのか？

設計に反映できない

ワーキングと当ててみてほしい

北垣：いろんな問題がでてきた

課題なので1つ1つ解決を

蜂谷：指摘ありがとう

千田：石垣の本質的価値

表面だけでなく背面構造も 基礎

西方先生 工学と文化財 どう両立するか

近年おおきな地震、集中豪雨

四国丸亀城 円弧滑り 石垣大崩落起きている

搦め手馬出し石垣 文化的価値は当然だが、

どういう方針で直すか

文化的価値をなるべく毀損しないのでできるか

掘削していない背面土 土壌改良、栗石

どういう文化財とすり合わせをするか

石垣部会でも論じないといけない

名古屋城全体としてどういう方針をするか

保存活用計画、基本的な発想をするか

ぶれないように議論

そういったことが保存活用計画でうたわれていない

そこもやるべきことをやった上で積み上げていかないと

史跡の修理は全く上手くいかない

ツギハギで、別のところは別の修理

全体整備検討会議で、名古屋城どうしていくかコンセンサスを

今日の資料 石材の資料について

本丸搦め手ではこう、天守閣ではこう、ではだめ

大変なことをお示しされていることになる

その辺

宮武：ワーキンググループ

私がホワイトボードに書いたこと丸写し

熊本城ではできてある 問い合わせしたか
調査、発掘だけだった
施工 莫大な時間がかかる 2日
被災で必死 熊本城 具体的な案を出す
「考えてください」これでは2時間では無理
間に合わない
全体計画があって、大原則
ダブルスタンダード そこらじゅうに
次回部会は「こういう方策で進みます」

蜂谷主幹：内部で検討

14：25

北垣：あと35分
出し方が問題
石垣カルテ 両先生から指摘されていること
時間的にいっても、説明は大変
カルテの問題 28 ページまで
質疑にかえる

宮武：天守閣の問題が出る前 どうしないといけない
1年半前提案
実際どこかでやってください
要らない項目、優先順位の見直し
シミュレーション
どこかをやってみた
何がわかったか

名古屋城：全部をやったわけではない
278面中219面 オルソ画像を作る
70カ所やった

宮武：70カ所やったのか

名古屋城：やった

宮武：空白がなかったか

名古屋城：あった

宮武：数カ所やってみ直しをしては、といていた。見直ししたのか？

名古屋城：これが有効かまだ検討していない

宮武：4分の1やってしまった

名古屋城：やった

北垣：こういう状況

20 ページ 項目見直し

石垣がどういう構造体か

垂直高 に対して、底辺幅 のり

傾斜角 はらみとか、凹み

立面図に出てくる

結果的に危険性の目安になる

20 ページ 入れてほしいところ

21 ページ 平面 いらずみ はずみ

変形をどう捉えるか

かなりもう一度見直しが必要

入れませんので、こちらからていあんします

時間の

宮武：さっき諦めた

石垣カルテは台帳ではない

危険な箇所とその後の経過編年

優先順位ができていない

モデルでやってもらって、木の繁茂

検討して、新しいフォーマットで 70 いくつ差し替えてほしい

危険度 下の方

21 ページ 勾配はどこでとっているか

3 種類ないといけない

現状にあってこないといけない

オスロ図

空白が空いているところ

今の定点を把握しないといけない

石垣のダメージ 把握するには足りない

そういうことをフォーマットで

70 カ所やり直し、100 何十カ所やって

千田：重要

崩落の危険性 樹木 崩落が危惧される

石垣面だけで検証 言ったもん勝ち

23 ページ 石目地 改めるべきだ

改まっていない

こういう問題がでてくるので、パイロット版をだして

項目を揉んで、広げていきましょう→関わりなく進んでいる

部会の議論を尊重してもらいたい

北垣：いろいろいいだすところなる

次に行かせてください

天守台石垣 4-1

質問から

14：39

千田 3 カ所発掘 Q の図面は？

名古屋城：今回は図面を出していない

千田：理由は？

村木：本丸御殿にスロープができていた

やらないことになっていた

千田：あらためるということですね

O 区、P 区 遺構が見受けられる

年代は？

名古屋城：O 区 瓦 2 段階 の下 江戸時代

P区 p32 図 12 近代以降の造成と考えている

千田：小石層は第何層か

名古屋城：12層 石が書いてある

名古屋城：南 32 ページでは

名古屋城：7層の上

図の9 平面図

千田：いずれにしても近代

近代？

宮武：図 12 13 メートル

標高 15 メートル

斜面、段差

段差を近代につけたという理解か

宮武：ワーキングで指摘した

ひっくり返した 宝暦に置きっ放し

地表にむき出しにあったという解釈

埋め戻した解釈ではないか

名古屋城：15層 西南とレベルが同じ

江戸時代 何らかの時期 9-14層

石垣補修をして埋め戻した

宮武：多くは

p区は関係がない

一致させてはいけない

千田：p区 近代とするのはどういう根拠か

名古屋城：方形のピットは近代と話を聞いた

千田：古い時代も 方形のピットを作ることはある

レベルはどこか

特別史跡の調査

「近世は人類は四角い穴を掘らなかったと聞いた」驚愕の事態

修復があった

絵図に見られる様に

宮武：本丸石垣調査は重要

オリジナルが残っている可能性がある

後になって霍乱のリスクは少ない

名古屋城でも数少ない場所

よほど「近代」認定はよほど積極的なものでないと

設計について

さしかえたもの

調査のまとめ

モルタルの問題

こちら辺にあります 図面はあるか？

名古屋城：41 ページ モルタル

42 ページ 西側、北側

宮武：赤がモルタルか？

名古屋城：赤が練り土 固形 石垣を固定されるため

青 注入状 流動性が高い

スコープでみてわかった

宮武：41 ページ左下 どこ

名古屋城：西

宮武：青が満遍なく

根石 隙間から入れたのか、上から流れてきたのか

名古屋城：両方あると考える

宮武：北側 練り状が上、中腹、下も

名古屋城：二つに分けたが、練り状固形物
形状が違っている 上から内部で落ちてきたもの

宮武：裏側が空洞ということか

名古屋城：そうではない

宮武：10何メートルある

名古屋城：写真でホース状のもの モルタルを流し込んでいる
何カ所は下位も

宮武：注入は青ではないか

名古屋城：数種類ある

宮武：わかっていない
プロがやっている
西面は青がびっしり入っている
上からか、ピンポイントか 見分けがつかない

名古屋城：明確に分けていない

宮武：これを根拠に木造できるか判断したいということですね
判例もごちゃごちゃ

村木主幹：観察したものと

宮武：何のために調査したのか
なかでコンクリートで悪いことしてたら致命的
もう一回同じ調査をする期間を考えているのか

村木：データがあるので見直せる

北垣：重要な問題
感じたところを出している
問題を出しているとは思えない

宮武：真夏の暑い時に足場に登って提案した
出てきたデータがつかえない

北側石垣
丸亀城 崩壊過程 担当者から聞いた
ああなる手前がここに出ている
この積み直し どういういじられ方
積み直しライン 一番上が昭和
宝暦 それはよい
もう一個左側 宝暦
宝暦段階で2回積み直し？2段階？

名古屋城：資料にある

宮武：「石積み調整」言葉が初めて聞いた

名古屋城：慶長期はあきらかに外した
右側 宝暦期と境界部分 外しているのは左
積み直し 宝暦期 1列入れることで積みやすくした

宮武：誰の意見か

名古屋城：私が案として考えた

宮武：石工には聞いたか？

名古屋城：まだ

宮武：石を積んだことがない素人が考えた。
それはない

名古屋城：それについては再考察させてほしい

千田：そうであれば左側ラインを
非常に重要なことがわかった
昭和期 外した
宝暦期 すみかど 残っている
一番最初報告で指摘したが、江戸時代の本質的価値の石垣が残っている
この部分の石垣は毀損することができない
あきらかになった
木造復元 基礎構造の部分で成り立たない わかってしまった
会議の冒頭 「必要に応じて見直す」→成り立つ余地がない
かなり深刻に名古屋城は考えるべき
「それを守って」所長は発言した
根本から考え直さないといけない
資料 34 ページ 西側面 (4)
亀裂や剥離 65% 何の点か？

名古屋城：全石材のうち

千田：いかにぼろぼろかあきらか
北面空白 より一層問題
石垣を保全していく 待った無しの急務
通常の石垣ではなく、モルタルが大量に入れられている
不自然、危機的な状態
ますますあきらか
取りまとめをして、モルタルこれからの検討
きちんと評価しないと間違ってしまう

宮武：宝暦の複数の積み替え
段階的に行った跡

名古屋城：そう

宮武：工程を分けたのか

名古屋城：資料がある

宮武：工程を書いてはいけない

修理記録とは別
同じ工期 傷ではなく
補修の力点が全く異なる
積み替えの傷か、工期かは明確に
慶長期のはらみかた 尋常ではない
石垣 完全に空洞
丸亀城 内側に沈降した
よほどの判断が必要 文化庁と
最も価値があるのが天守台石垣
修理 大外科手術 価値はほとんどなくなる
解体調査
現状固定か

15 : 16

北垣 : 資料 5

宮武 : 資料 5 青いのを追加
スクリーン トーン 要注意
巨大なゴミ穴がかくれていることがわかった
慶長期
土がない ゴミしか入っていない可能性
深さがどれくらいかわからない
天守台の健全度 ゴミを全部とらないと
北側だけ水たまりはごみだから

村木 : グレーで書いた
今後検討

宮武 : いくつかいる

千田 : 調査場所 宝暦修理わかるように
当初設計 もう一つの小天守
石垣の基礎工事が行われたかどうか
両方を意識した調査区設定を
北側面 U61 U65 劣化で激しい
丸の 1 あたり 裾 地表面に馬詰石

対岸側の石垣も緊急状況
天守台発掘調査 健全性も重要だが、
周辺崩れては意味がない
園路を支える 人命を支える調査を

北垣：具体的に問題が出てきた
十分に指摘を踏まえて、次回以降調査を進めていただきたい
絵図の分析 いわゆるコンクリートの注入問題点
極めて厳しい課題が出てきたよう
絶対であるか 調査の性格上慎重に対応すべき
それも合わせてさらにご検討していただきたい
時間的に押していたこともあり、なかなか十分に
納得されたかわからない、それだけ多くの課題が見えてきた
あわせて一層の調査、検討をしていただきたい

愛知県：一言だけご発言を
北垣座長まとめられた
全体を見通すと、本丸搦め手 現変許可
積み直しはこれからの許可
この点は課題は指摘されたが、石垣の傾斜、復旧盛り土
江戸期の遺構をどうするか
一つ一つ細かく検証
名古屋市として方針を固めてすれば、時間がかかっているが粛々と進んでいける
天守閣の問題も進める

蜂谷主幹：ありがとう
次回は日程調整
記者会見する

15：26